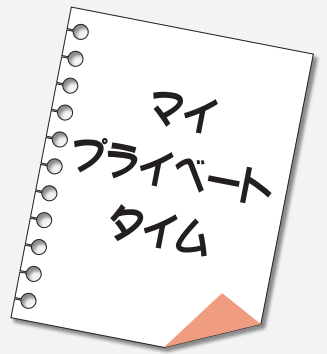


# 川柳で気分転換

伊万里市長(佐賀県) 塚部芳和  
Yoshikazu Tsukabe



## 「犬との散歩」

朝起きたら、パピヨンのロン太君(13歳)、チワワのポン太君(10歳)、官兵衛君(2歳)を連れての散歩から私の一日がスタートします。動物を飼うのは大変ですが、気持ちを癒やしてくれるので犬たちに感謝です。犬の散歩が終わったら、私一人でウォーキング、まさに、この時間帯が私のプライベートタイムで、あとは公務に追われます。そんな中、思い出すのが、キスの事です。

## 「キス!?!の思い出」

「キス」といっても魚のキスのことです。私は、伊万里湾に面した海育ちで、幼いころから釣りに興じていました。釣りとはいつても、瀬渡し船に乗り、沖の離れ小島や岩礁でのクロヤチヌなどを狙う磯釣りや、船上からタイやヒラメを狙う大物釣りではなく、波静かな伊万里湾で小



犬3匹連れて朝がスタート

船を浮かべながら、もっぱら砂地を見て釣りを垂らし、キスを釣るのが私の唯一の楽しみでした。キスは釣ってよし、食べてもよしと言われ、針に餌のゴカイをつけて、オモリを底地まで沈ませ、自分の方に引き寄せるといった具合に釣り方も至って簡単で、その時、「ゴクツ、ゴクツ」と何とも言えない手応えがあり、リールを巻き上げると10cm程度の細長いキスが掛かってきます。うろこも少なく調理しやすく、そのまま焼いたり、3枚におろして天ぶらやフライにと淡泊ながらも大変上品な味の魚です。

豊臣秀吉が、伊万里湾近くの肥前名護屋城に滞在中、タイ釣りに出掛けたところ、本命のタイではなくキスが数多く釣れ、食したところ、「これはうまい」と感嘆の声を上げたとの言い伝えから、この地方では、「かさかな」と呼ばれています。たかがキス、されどキスです。私は、キス釣りにかけては、一度に50匹以上の釣果を収める自信があります。以前、職場の先輩から、船上でのキス釣り対決の挑戦を受けたことがあり、私が立て続けに釣り上げるのを見て先輩がさじを投げられたこともあったほどです。

しかし、市長就任以来14年間、そのキス釣りが全くなかったのが残念ですが、伊万里湾のキスたちは釣り上げられることもなく、さぞ安心してのことでしょう。



市民展で出品作の前に立つ筆者

## 「一心に篆刻」

25年前から、硬い石材に四字熟語などを彫る篆刻を習いはじめ、今では年に2回程度、市文化祭の書道展等に出品する作品を制作しています。鏡を見ながら文字を書き入れ、鋭い金の刃物で彫るには集中力と緻密さが求められ、完成までに2日間を要します。年齢を重ねると目や腰への負担も重くなってきた、最近では、すっかりさぼり気味となっています。

## 「川柳づくし」

私は、6年前、腰と足に痛みやしびれを感じ歩行困難となり、受診したところ脊柱管狭窄症との診断が下され、手術を受け2週間程入院しました。退院後、思っ

たようにすっきり感がなく、イライラする毎日が続いたため、気分転換にと川柳づくりに取り組みました。知人から、伊万里川柳会への入会を勧められましたが、時間的制約を受けるからと断り、自己流で川柳をつくり、地元紙の読者文芸欄に毎週3句、投稿するようにしています。投稿して2週間後の朝刊に、県内の多くの愛好者たちが投稿した中から、入選した25句が掲載されます。

私のような素人が入選するのは、ごく稀なことですが、平成22年7月の初投稿以来、これまでに108句入選しており、今では、新聞を読まれた市民の方々とは、「入選おめでとうございます」があいさつ代わりになりました。

川柳づくりは、主に、移動の車中や就寝前にします。仕事モードから、頭を切り替えることにより、リフレッシュでき、ストレス解消につながる事が利点で、物事を



「えびす祭り」で宝船に乗り豆まきをする筆者

さまざまな角度から見たり、考えたりするので、仕事上でも、多面的思考能力養成にもつながっているように感じます。

また、市長として、各種行事やイベント等であいさつを依頼されることが多々ありますが、例えば運動会では、

・運動会 上司の子供 追い抜くな  
と川柳を交えると、聴衆から笑いが起きます。

ここで、恥ずかしながら入選した句をいくつか紹介します。

・スカウトが 卵を探す 甲子園

（プロ野球ドラフト候補の目玉探し）

・尖閣の タイやヒラメに 日の丸を

（中国と日本の尖閣諸島をめぐる問題）

・ロンドンの 金の行方は 霧の中

（霧の街・ロンドンでのオリンピック）

・白鵬と 取らせてみたい 双葉山

（白鵬が双葉山の69連勝記録に迫る直前）

・横綱は モンゴル人の 指定席

（日馬富士、鶴竜と続けて横綱昇進）

・シラウオに 睨まれながら 春を喰う

（春到来告げるシラウオのおどろ喰い）

・うぐいすが 火花を散らす 選挙戦

（統一地方選挙で候補者が乱立）

また、東北の震災復興を願い投句したものに、

・三陸の ワカメ恋しい サザエさん

・被災地に 思いをはせて サンマ焼く

・東北の 素材たっぷり あるおせち

ちなみに、年末から年明けにかけては入選する回数が多くなり、選者の好みをちよつとは把握したのではないかと思いますが、サラリーマン川柳やはやき川柳のように独特の強烈なひねりは敬遠されるようです。

・熱燗が 結んだ紐を 緩くする

・鍋つつく 噂話も 放り込む

・直筆の 気持ち伝わる 年賀状

・箏曲の 音色が包む 松の内

・猿が言う 落ちてもめげず 頑張れと

・大雪に 慣れぬ体が 凍りつく

小さな笑いとユーモアで、ちよつと心がほぐれる時こそが、私のプライベートタイム。

結びに、10年ぶりの日本出身力士・琴奨

菊の優勝を投句します。

・大相撲 人気回復 かぶり寄り



新聞に掲載された川柳（佐賀新聞提供 平成28年2月12日付）